

会 議 録

内容承認		公開・非公開 の別	〈開催日〉 令和6年9月9日（月） 〈時 間〉 13：00～15：00 〈場 所〉 岸和田市職員会館 2階大会議室	〈傍聴者〉 3名 〈傍聴室〉 岸和田市 職員会館 2階大会議室
吉田会長	梅崎委員			
承認	承認	公開		

〈名称〉 令和6年度第1回岸和田市環境審議会

〈出席者〉 委員 19名※中 16名 （○は出席、×は欠席） ※1名欠員

赤坂	井阪	泉	梅崎	江種	大家	表	川瀬	清水
○	○	○	○	○	○	×	×	○
高原	中	林	原（宗）	原（祐）	藤井	松井	山本	横川
○	○	○	○	○	×	○	○	○
吉田								
○								

（理事者） 市民環境部：生嶋部長

（事務局） 環境保全課：重田課長、北川主幹、亀田主幹、前田主任、間

 廃棄物対策課：宅田課長

〈報告〉

- （1） 新委員のご紹介
- （2） 事業の進捗状況について
 - ① 公害対策事業
 - ② 自然環境保全事業
 - ③ 地球温暖化対策事業
 - ④ 環境保全事業
 - ⑤ 環境計画推進事業

〈意見交換〉

- （1） 環境計画の改定方針について
- （2） 環境啓発イベントのあり方について

〈会議内容〉

1. 開会

2. 会議録の作成

会議録の確認について、会長が梅崎委員を指名。

3. 報告

（1） 新委員の紹介

新たに委嘱した委員について事務局より紹介

春木校区長会連合会会長の清水氏が新たな委員となった。

また、令和6年3月31日付で、岸和田市消費生活研究会が解散したことを受け、作田委員が職を辞されたため、現在環境審議会委員は1名の欠員となっている。後任者については調整中であり、次回審議会までに参画いただく予定であることを事務局から報告。

新たな委員が加わったことを受け委員・事務局それぞれ自己紹介を実施。

(2) 事業の進捗について

①資料集(1) 公害対策事業について、事務局から資料に沿って説明を実施。主な内容は以下のとおり。

- ・岸和田市環境保全条例に基づく指定事業所に係る排水基準について、水質汚濁防止法の改正に伴う六価クロム排水基準の強化により、法にあわせて強化した。
- ・刑法の一部改正に伴い、岸和田市環境保全条例に基づく罰則に関し、「懲役」から「拘禁刑」に改正予定である。【令和6年12月施行予定】
- ・岸和田市環境保全条例に基づく指定事業所に係る排水基準について、水質汚濁防止法に基づく排水基準が大腸菌群数から大腸菌数に改められることを受け、法と同様に改正予定である。【令和7年4月施行予定】
- ・岸和田市のPFAS検出状況について、資料集3ページのとおり、令和5年度に春木橋で指針値50ng/Lを超える60ng/Lを検出していたが、令和6年8月14日に実施した値は基準値以下との速報を受けている。確定値ではないため資料には記載していない。

②資料集(2) 自然環境保全事業について、事務局より資料に沿って説明を実施。主な内容は以下のとおり。

- ・ブルーカーボン関係業務について、環境保全課では4月頃から取組を進めており、日本経済新聞に掲載された。
- ・アドベンチャーワールドの運営会社である株式会社アワーズと共に、パンダが食べる岸和田の竹を使った「パンダバンブーアートプロジェクト2024」を進めている。
- ・クビアカツヤカミキリの被害対策として、岸和田市公式ホームページに注意喚起のページを掲載した。また、クビアカツヤカミキリ駆除報告ページを作成した。写真や位置情報を得られることから電話で通報を受けるよりも正確な情報提供を得られると期待している。
- ・神於山保全活用推進協議会(自然再生協議会)のあり方を見直すことにより、継続性のある活動が続けられるよう、体制変更を検討する専門部会を設置して協議が進められる予定となっている。

③資料集(3) 地球温暖化対策事業について、事務局より資料に沿って説明を実施。主な内容は以下のとおり。

- ・地球温暖化対策設備導入補助金制度について、事後申請方式の採用、出力要件の変更、再申請要件などを規定するため一部改正した。
- ・市有施設の各照明設備をLED化する計画(令和5年10月策定)に基づき、令和6年度も改修を進め、一部の例外を除き令和10年度までにLED化する予定となっている。
- ・EV公用車の導入状況について、令和5年度はリユースEV(中古電気自動車)実証のために3台導入した。令和6年度は7台導入予定である。また、7台の中の1台にEV側車付二輪(トゥクトゥク)を試験的に導入予定である。

- ・リユースEV運用実証について、自治体向け機関紙「自治体通信」の取材を受け記事が掲載された。永野市長がインタビューに答えている。

④資料集（４）環境保全事業について、事務局より資料に沿って説明を実施。主な内容は以下のとおり。

- ・大栄環境株式会社和泉エネルギープラザ整備事業に係る環境影響評価は、大阪府知事に市長意見を提出済。岸和田市として準備書に対する手続きは完了。
- ・木材町の貯木場の埋め立てに向けて大阪府の動きがあったため、この開発について環境影響評価専門委員会を設置し、自然環境や地域住民への影響が懸念されないかを審議いただきたいと考えている。委員の委嘱に当たっては、本審議会の委員の中から優先的にお願いする予定。和泉エネルギープラザは府の環境アセスメントであったが、本件は国の制度に基づいて実施する。
- ・岸和田市環境審議会規則一部改正について、包括連携協定などで岸和田市に協力することを意思表示している企業や団体の中から委員が委嘱できるよう、委員委嘱の要件を追加した。

⑤資料集（５）環境計画推進事業について、事務局より資料に沿って説明を実施。主な内容は以下のとおり。

- ・市の内部組織である環境計画等推進会議を合理的に体制変更するとともに、ゼロカーボン推進会議を廃止した。

4. 報告に対する意見表明及び質疑応答

【委員】

六価クロム化合物とはどういう物か。

【事務局】

六価クロム化合物は、ネジなどのメッキ工程などで使われるもので、強い毒性を持つため濃度規制も厳しくなっている。全国的には使用を避けつつあり、岸和田市域でも使用業者は減少傾向であるが、使用している業者の排水は、立入検査を行い基準値以下であることを確認している。

【委員】

六価クロムについての補足だが、公共用水域の環境基準が0.5mg/Lから0.2mg/Lに強化されたことに伴って、市の排水基準も同様に強化されたということ。環境基準が強化されると、排水基準も強化され、環境基準が緩和されると、排水基準も緩和されるという流れとなっている。

【委員】

公共施設での太陽光発電は今後増加の見通しはあるのか。

【事務局】

既存施設で既に設置しているものが何ヶ所かあるが、最近の増加はない。現在公共建築物について、市庁舎、小中学校、公民館などについて施設の統廃合の計画などもあり、その過程で新たな施設を設置する場合などは、常に太陽光発電の設置を検討していくことになると思われる。

【委員】

P F A Sについてだが、岸和田市の水道は100%企業団のものか。自己水や地下水の利用はあるか、またそれらについてもP F A Sの計測は行っているのか。

【事務局】

一部自己水があり、上下水道局浄水課が管理している。PFASも計測し、指針値以下と確認している。結果は全て岸和田市公式ホームページにて公表している。地下水については利用されている家庭や、自己水源を持っている事業者もあり、それについては浄水課、健康推進課の2課から、積極的に計測していただけないかと申し入れている。

【委員】

現在PFASは指針値レベルにとどまっているが、今後健康への影響が明確になり、基準値が定められると、水道基準が決まり、その後環境基準が決まってくる。その時に備えPFASについては注視し、今後も水道部局と連携をうまくとり、地下水の水質についても考えていけば、今後基準値が決まっていたとしてもスムーズに対応していけると思われる。

【事務局】

現在も浄水課と密に連携を図っている。PFASは現在水道の水質基準項目に含まれていないため、地下水を利用している方には要請という形で頻繁に計測を促している状況であると浄水課から聞いている。

【委員】

リユースEVについて、デメリットも示していただきたい。電気自動車は発火の恐れがあると聞いたが、市として発火の恐れについても考えているのか。

【事務局】

EV車に搭載されているリチウムイオン電池は、発火の可能性はあると考えている。自動車用以外でも実際に、岸和田市貝塚市クリーンセンターでリチウムイオン電池の発火がある。ただ、それをもってEV車の使用を控えるということにはならず、リチウムイオン電池もしくは別の種類の電池が開発されていき、EV車の普及が進んでいくようにと考えている。

【委員】

資料集にある自治体通信掲載の記事ではメリットは伝わってくるが、デメリットも含めて周知すべきではと考える。

【事務局】

デメリットは実証の中でも捉えている部分はあるが、我々EV車の導入促進を進めていく立場であり、国の政策からも繋がってくる場所である。デメリットを前面に押し出しながら推進は難しい。しかし、実証のなかでとらえたデメリットを挙げるとすれば、航続距離が挙げられる。乗用車についてはほぼ問題ないと現段階では推測しているが、公用車で使用している軽貨物自動車、トラックなどいわゆる商用車については、性能を向上しない限りEV車を使うのは厳しいのではないかと実証中でありながら感じている。

また、職員に対してドライバーアンケートを行ったところ、食わず嫌が多い。EV車に実際乗ってみると快適だと感じるが、初めて乗る前は抵抗感を持つという傾向を捉えている。

【会長】

様々な制約がある中だと思うが、費用面の制約、価格が高いことをクリアするための1つの社会実験としてリユースに取り組んでおり、様々な課題を明らかにしながら進めていくというのはすばらしい取組だと思われる。

【委員】

資料集24ページにある補助金制度の変更点で、一定の要件を満たせば、故障した際に再交付し

ますとあるが、この先どこまで技術の進化があるかは不明だが、より環境に望ましく、なおかつ省エネで、結果省コストになるような技術が登場した際には、故障を待たずに積極的に乗り換えていくことを応援するような制度であって欲しい。例えば、製品の更新が望ましいと判断される場合については再交付を認めます等。昔で言うと家電エコポイント制度といった買い替えを促進した制度がありましたので。そういう状況になった時に環境的にも家計にも望ましい買い替えを促すことができるよう改定を含めて検討いただきたい。

5. 意見交換

(1) 環境計画の改定方針について

次第3 意見交換(1) 環境計画の改定方針について、事務局より説明を実施。

岸和田市環境計画は本市環境行政の最上位の総合計画である。現行の岸和田市環境計画は、平成10年3月に策定し、平成28年3月に改定したもので、これを来年度改定したい。世界的にも岸和田市においても様々な状況変化があったこと、今年5月に国の第6次環境基本計画が閣議決定されたことを反映したい。令和7年度中に計画の改定作業をし、令和8年度より新しい計画でスタートしたい。改定作業は業務委託となるため、委員の皆様の意見を反映した仕様書を作成し、予算を確保して、委託発注に繋げていきたいと考えている。現行の環境計画を改定するにあたり、留意すべき点、漏らすべきでない項目、市民の皆様に伝えるに当たって伝わりやすい伝え方のアイデア、作業の進め方や編集の方針など様々なご意見を賜りたい。

【委員】

岸和田市環境計画 22 ページ 基本目標3 持続可能な循環型社会を形成するについて。岸和田のゴミ袋の値段が他市に比べ高い。また、ゴミの回収が週に4回あるので、膨大な費用がかかっている。1人分、2人分のごみの量と、そのゴミの回収・処分にいくら費用がかかっているかを示せば、市民の方々に伝わりやすいのではないかと考える。

また、違法放置自転車を見つけたときに、警察が対応するのか、市が対応するのか、また、どの部署が対応するのかが分からないので、違法放置自転車を見つけた場合の対処法を市民としてはわからないところがあるので示していただきたい。

【事務局】

ゴミの排出量については廃棄物対策課が詳しいので、計画を考える中でご意見を参考にさせていただく。

違法放置自転車の件については、その置かれている状況によって対応が変わってくる。例えば市役所の中でずっと自転車が停まっている、公園に乗り捨てられている、道路に放置されているなど、それぞれの場所に管理者がありますので、自転車に限らずそれぞれの部署が管理している場所で何か問題が起これば、その部署が対応させていただくこととなる。

【委員】

先ほどゴミ袋の値段が高いとの話があったが、ゴミ袋が高いことによるメリットが2つある。1つは、環境負荷を考えているという点。分別を行えばゴミ袋代が安く済むので、分別を促すためにも少し高くても良いと考える。

もう1つはゴミ袋にかかる費用を抑えるためにも、ゴミを出すときに袋の中の空気を抜くことで、CO2削減につながるという点。ゴミの量だけでなく袋に空気が入ったままだと、パッカー車

がすぐ満杯になりパッカー車の台数が増えることでCO2が増えてしまうので、袋の空気を抜くことで、パッカー車の台数も減り、CO2も削減されると考える。

【委員】

岸和田女性会議で実施している「かしまし座」で知ったことだが、いま出産後に有料ゴミ袋を支給しているが、「(紙おむつは有料ゴミ袋に入れて出すことはわかっていると思うのに) プラゴミの収集日に出されていることがよくあるので困っている」とのこと。子育て世代のフォローの仕方、紙おむつの使用年齢を考えた有料ゴミ袋の支給も今後考える必要があるのではないか。ごみの収集回数も家族形態によって出るごみの量は違うので、ゴミを減らす努力・工夫は必要だが、現在の状況が多いとは言えないのではないか。

私たち岸和田女性会議は毎年廃棄物対策課との懇談会で一人分のゴミ処理料金等知っているのが、市民が正しい分別をすること、ルールを守ることによって税金の使用を節約することができることを知ることは必要なことだと思う。

【委員】

業務委託されるというのは非常によくある事であるが、環境計画を読む人がほとんどいないのが正直なところであり、委託業者もパターン化された受注をして、どの市にも同じような仕事をするところも多い。やるからには独自色を出すべきであって、そのためにも動的なコンテンツで環境計画を作るべきだと思う。

例えばウェブサイトでより下位の生物多様性計画にどこがつながるか分かるリンクをビジュアル化できるようなものなど、動的なコンテンツでほかの計画との関係性を視認しやすいものにするとうい。ウェブサイトにも強い会社を呼び込むというのは重要。私が関わった他の自治体の場合は、情報系部門の職員も仕様書作成に関わり、かなり細かく厳しい内容で仕様書を作ったところ、大手企業ではなく地元企業さんが手をあげ、かなり良いものができあがったという経験がある。そうした地元企業がきてくれれば、地域経済的にも非常によい。動的なコンテンツで対応できる厳しい仕様書を書いて、しっかりした企業が来てもらえるよう流れを作れば、岸和田市の環境計画がビジュアル化されていて良いなという風に、全国的な評判も高まると思う。他部署になると思うが、岸和田市もオープンデータ化が進んでいると感じるので、オープンデータのサイトのイメージを参考にしてみても良いのではないか。その時に発注した企業を見ても良いと思う。

【会長】

今のような事務局の頭のひらめきにつながるようなキーワードをお伝えいただければと思う。

【委員】

プラスチックゴミについて、プラ表示がないものはプラスチックゴミとして出してはいけないことを知らない市民がいるが、分別をきちんとすることが、環境汚染などを防いでいくことに必要だと感じるので、自分たちの生活に密着したところを少しでも理解することが大事だと考えている。サラダ油の容器をプラスチックのゴミで出すために中を水で洗うのと、洗わずに燃えるゴミとして出すのはどちらが環境にやさしいのかという様な身近な例が市民には必要である。容器を洗うために水を沢山使い、その汚れた水を流すよりもそのまま燃えるゴミで捨てる方が環境にはやさしいというような知識を生活するうえで知っていれば、環境汚染を防ぐうえでも大きな影響を与えると思う。環境計画を改定するときも、市民生活をするうえで、こういう風にすれば少しでも環境にプラスになる生活を送れるということが、誰が読んでもわかるようなまとめ方を一番にさせていただいた

い。

【会長】

市民の視点での大事な意見をいただいた。どうすれば環境計画が具体的な個人一人ひとりの様々な行動に繋がっていくのかというところを考えながら、どういうコンテンツで、どういう風な構成を、またそれを作り上げていくプロセスを、総合的に考えてくれるコンサルタントにお願いしたい。

【委員】

計画策定する際にワークショップをするのであれば、若い人達の声が欲しい。次の環境計画は2030年半ばを生きる人達の暮らしに関わる計画である。どこの自治体も目指すべき社会像が基本目標に書いている事柄がありきたりでどこの自治体も言っていることが同じ。2040年の岸和田市をどんな町にしたいのか具体的な姿が全然見えない。若い人が10年経ってもこの町に住み続けたいと思える姿とは何だろうかということ、それを環境面からどういう風に描き出すのかということがわかるワークショップをする必要があるのではないか。また、自治体職員自身がどんな町になって欲しいかということも関係者で集まってワークショップをしても面白いのではないか。

私が不満なのは、市民の行動変容、意識の変容に対して、「啓発をします」や、「学習してもらえます」などお客様の対応が多い点なので、2050年に向けてライフスタイルそのものをどうやって大胆に変えていくのかというのを本当に考えなければいけない。その前段の計画になるかなと。どういう風に人々の行動変容を促していくか、そこをもっと大胆に、色々なものの有料化を含め、市民は嫌がるかもしれないが、その提案をしてくれるようなことがあっても良いのかなと考える。

【事務局】

行動変容について、有料化の検討も必要ではないかとのことだが、企業さんから意見としていただいたことがあるのですが、ペナルティも考えた方が良いのではないかという考え方で良いか。

【委員】

その考え方で良い。あと1点だけ、ワークショップには若者をとったが、是非、自治体の働いてらっしゃる皆さん自身がどんな街になってほしいか、関係者で集まってワークショップされることもコンサルがやってくれるなら面白いと思う。

【委員】

現行の環境計画は、21ページぐらいまで前の平成20年の計画に対してどういう現状であり、どうされてきたか、社会情勢の変化、そういうことをまとめたうえで、この平成28年の環境計画を作られていると思うんですけども、コンサルに委託されるということだが、この辺りまでは市の作業ではないかなと思う。

行政としてどういうことができてきたのか、できてきてないのかと。社会情勢の変化によって対応しなくなったことなど、そういうものがあると思う。そういうまとめをしていただいて、皆さんの意見をというふうに、具体的な形としてはそういうことが必要ではないかなと思う。その辺りはいかがか。改定時期が来たから改定方針について意見をというよりも、その前に一段階、現環境計画に関してどう進めてきて、結果どうだったかということが示されたうえで次の計画が立てられるのではないかなと思うが、いかがか。

【事務局】

現行の計画に対するPDCAのCなりのところは必ず必要であると思っている。後半を見てみると既になくなっていく取組が多く、かなり突っ込んでチェックしていかないといけないと考えてい

る。ご指摘感謝する。

【委員】

忠岡町に産廃処理場を造る話がでてしていると聞いて心配している。風向きによっては有毒なものも流れてくると思う。岸和田市の環境を考えるうえで、岸和田市だけではなく周辺の地域のことも考えたら、海のこと空のこと岸和田市だけで考えていくのではないところも多いのではないか。

【委員】

少し歴史を振り返り整理したいと思う。現行の環境計画を策定した頃の第4次環境基本計画の時は、低炭素・循環・自然共生・安全。今でいうカーボンニュートラルと、生き物たちが幸せになるというネイチャーポジティブ、循環というのはサーキュラーエコノミーという言葉が最近使っているが、資源が循環する中で生き物も気候も安定すると。最後に安全というのが当時加わって。当時は化学物質を安全に使用していくというところに、最近では災害も加わり、人々の安全に対して強靱な社会をつくるということでレジリエンスという言葉が使われて、この4つの柱を別々にやるのではなく、統合的に解決するんだと色濃く出たのが第4次環境基本計画だった。今の社会でカーボンニュートラルとネイチャーポジティブをくっつけるというのは、実はこの段階で出ていたというのがひとつある。

その後、第5次環境基本計画の目玉がSDGsである。気候が安定するか生き物が幸せになるとか「私関係ない」とならないように、環境や社会と経済、人々の普段の生活と環境が全て繋がってSDGsという17個のゴールで統合的に解決するというのが第5次だった。気候を安定させるためには再生可能エネルギーがいる。再生可能エネルギーを利用すると社会に技術イノベーションが起こる。ジェンダーで賃金差が出ているところに女性の方々に再生可能エネルギーの主角を担っていただいて、そこを解消していくような繋がりを作っていくことが幸せに繋がるんだというのが第5次の特徴だった。

今回、第6次環境基本計画は、地球の環境的限界の内側（プラネタリー・バウンダリー）、で住みつつ、人々が尊厳を持って、例えば格差が存在せず幸せに生きていける（ソーシャル・バウンダリー）、プラネタリー・バウンダリーとソーシャル・バウンダリーの間でウェルビーイングという言葉が強く出ている。幸せになるんだということ思い切り前に出しましょうというのが第6次の特徴。

そこで、仕様書に書く内容を3つ提案したい。1つ目が、岸和田市環境計画が、岸和田の幸せにどうつながるかといくことを一般論ではなくきちんと書いてほしい。

2つ目が一般論ではなく岸和田の人の幸せにつながるその幸せとは一体何かを、岸和田バージョンを定義してほしい。そのために若手のワークショップ、環境団体の皆さんのヒアリング、岸和田の職員の中でどういう規制が幸せなのかを議論するというのを、メッセージで出してほしい。

3つ目は、市長動画のような形で、決まった岸和田のビジョンを、強い決意をもって動画等にしてコンテンツとして出すと岸和田らしさが出るのではないかと思う。

【委員】

産業界としては地球温暖化対策を現行の計画では少し弱く感じるので、今の時代にあわせて、力をいれて変えてほしい。

【事務局】

ただ書類に文字を落とすということだけではなく、動的なコンテンツを使ったり、岸和田の独自性についてなど、改めて認識する部分が多数あった。今後もぜひお力添えいただきたい。

【会長】

計画に必要な目標、指標でその指標のあり方も、SNS等市民が参加しやすいような形に考えて発信していくステージになってきているように思う。また今の話を伺って、国だとPDCAをしっかりとまわし、基本計画に対してのチェックをやっていくが、市町村はそのあたりが弱く感じた。そこをどう行っていくかも課題だと思う。

(3) 環境啓発イベントのあり方について

次第3. 意見交換(2) 啓発イベントのあり方について事務局より説明を実施。

資料集 49 ページにあるのが主な環境計画啓発イベント一覧である。現在のこの1年半の状況をまとめている。

この中で岸和田市環境フェアは環境保全課が柱として実施してきたイベントで、記録を確認する限り平成14年から毎年開催してきた。啓発要素は全てのテーマを扱った内容となっている。しかしながら、予算や人員の削減、新型コロナの影響で規模を縮小せざるを得ない状況となり、直近では令和5年にラパーク岸和田で小規模なパネル展示行ったに留まり、実質的な動員数も少なく啓発効果が非常に乏しい実情である。一方で、地域団体と連携して実施する数百人を超えるイベントがあり非常に好評でこの対応にも注力しているところである。

環境保全課としては、従来の岸和田市環境フェアを廃止し、1つのイベントですべてを詰め込むというやり方から、市内各所でそれぞれの時期に開催されているイベントの中で啓発に注力していきたいという風に路線変更を考えている。この機会に、委員のお知恵をお借りして、効果的なイベントの実施につなげてまいりたいというふうに考えている。

つきましては環境啓発のイベントあり方、規模、テーマ、催しの内容、従事者の構成、どのように伝えていくのかなど、ご意見をいただければと思う。

【委員】

人数が集まるイベントと一緒に参画してやっていくのは一つの手であり良いと思うが、だからといって、環境の部署が何もやらないとなると、アピールが弱くなるように思う。だからといって人数の少ないパネル展示を続けていくのかという別問題。環境計画のところでも出てきたが、オンライン、SNSやYouTubeなどのコンテンツを充実させて、それでアピールしていくというような形で岸和田市の環境部門はイベントじゃないが独自の広報活動なりにつなげていって、それに人数が集まるイベントにも乗っかっていくというような形で、二刀流みたいな形で、YouTubeを開設し、Xで情報発信をしながら、人が集まるイベントにも参加していけば、若い人にも届くのではないかな。

環境だけではなく、防災に関するイベントでも参加するのはご高齢の方ばかりということになっていて、どうしようかと考えていた時期が私にもあったが、若者に訴えかけるということであればやはりSNSを通してしっかりとアピールしていくことが重要になってくる。環境フェアをオンラインの情報発信に置き換えていくというのがいいのではないかなと提案させていただく。

【委員】

一覧にあるように、神於山保全くらぶはこの中のほとんどに関与している。展示だけではなかなか難しいと感じた。来られたら無料で何かを差し上げるとすると少しは人は集まるが、美味しいものがないとなかなか来ないというのであれば、それは表面的で終わっているというのが実際に参加

した者としての考え方です。たとえ人数が少なくても環境ということで深くやれば理解してくれる人が多くなるのではないかと思います。また家族連れで来てもらえたり、次世代を担う子供たちをメインにしたイベントというのを考えていくのも一つの方法だと思います。

【委員】

私が行った中で、大阪市で行った親子で夏休みの自由研究という題のイベントは大変好評だった。風力発電や、プラスチックや牛乳パックを用いて親子で工作するのだが、親も子供もSDGsやゴミ対策についての話をしっかり聞いてくれ、また発展性もあるなと感じた。私もエコフェスタなどで出展するが、アメニティをつけてというのは環境に触れていただくには良いが、深く学んでみようとかいう発展性がなかった。環境教育の中で伝えていくと、子供たちが酸性雨の実験をする中でもっとこういうことについて調べてみたいなど、前向きな学習意欲が引き出せた。公民館などを通して開催していただければと思う。申込日当日に満員になった大阪市はアプリなどを利用した効果が大きいと感じる。また集客についても、集客のための宣伝効果も考えなければいけないと思う。

【委員】

先日、女性会議の役員会で岸和田の祭りの会議に出ている方の報告を聞いたが、岸和田祭りはゴミ祭りという風にゴミが多いということで、その会議でも問題になっている。今年は若頭の方々がゴミの処理を頑張ろうと計画していると聞いた。この金曜日の試験日曳きから祭りが始まるが、祭り関係者がゴミの問題に関心を持っているということがあるので、理想を求めるのではなく、缶・ビン・ペットボトル・燃えるゴミだけはきちんと分けて片付けようとか、来た人にゴミの捨てる場所を明示してアピールするのはどうか。岸和田祭りは若い人たちにとってすごく関心があるものですから、若い人、祭り関係者にゴミの分別を働きかけて、タイアップするのもすごく効果があるのではないかと。

【委員】

岸和田市環境計画を見て、こんな素晴らしいものを岸和田市は作っていたのかと最初驚いた。ただ、一般市民に伝わっていないと感じる。もったいないと正直思った。イベント一覧の参加数を見ても、小中学校をもっとうまく使えないかと。環境計画を学校の先生に子供向けに落とし込んでもらえれば非常に良い教育ができると思う。イベントに関しても面白いことをやっているのだから、子供向けに落とし込めれば、子供たちも岸和田に対する愛着が益々出てくるでしょうし、その子供たちが将来的に岸和田を背負っていくのではと思う。そこをうまく繋いでいけるようなことをやっていただきたい。

【会長】

イベントについては、お土産を配るだけでは表面的なものになってしまうので、深く学んでみようとか前向きな学習意欲を引き出すような参加型が大切だというお話があった。教育というお話もあった。

また従来の環境フェアは気づく場を設けるという意味の、プラットフォームとして機能していたのだと思う。プラットフォームのあり方については、オンラインにするのか、あるいは別の教育のプラットフォームにするのか、考える必要がある。例えば、尼崎市で昔NPOと市役所が一緒になってプラットフォームを設けており、従来の環境フェアのプラットフォームとは違い、プレイヤーは違うが、そこに企業が入って子供相手にブースを作って自由研究につながるようなイベントを実施するというのをやっていた。何らかの形でプラットフォームを作っていくことは大事だ

ということ、従来の岸和田環境フェアは皆さん変えていった方がよいのではないかというふうに思う。ただそれを、どのように変えていくのか、例えば現在他のイベントにない、教育とのかかわり方も含め、見直しをしていくということで、一旦集約させていただきたい。

6. その他

【委員】

質問をかねてお聞きする。分別したゴミがその後岸和田市貝塚市クリーンセンターでどうなっているのか私はあまり知らない。何年か前にこの委員の方が見学されたという話を聞いた。しかし、個人で見せてもらえる機会がない。どうすれば見学可能か。

【事務局】

岸和田市貝塚市クリーンセンターで個人の見学は受付をしていないが、団体単位なら調整次第で随時受け付けている。例えば、環境審議会として、我々事務局の方で手続きをとってご希望の委員何名かで見学に行っていただくことは可能。こちらで日程調整をして行っていただくことは可能である。

【委員】

年に1回ぐらいフェアでやっていないか。

【事務局】

3R フェアでイベントはやっているが、個別の見学は調整次第です。6月辺りは社会見学が優先となっていたと記憶している。

【委員】

委員会で調整していただいて、何人かでも行かれる方があったら良いですが。なかなか難しいのかもしれないが、一般市民でも受け入れできることが将来できればいいなと思ったりもする。まずはこの委員会で募っていただいても良いのではと。昔、分別しても焼却場に行ったら一緒に燃やすから分けても一緒と言う人もいたので、最終どうなっているのかと疑問があった。

【事務局】

今回の会議録等をまとめた後になるが、ご希望の方を募り、岸和田市貝塚市クリーンセンターの見学についてご意向の照会をメールでお送りする。

岸和田市貝塚市クリーンセンター自体は岸和田市ではなく別組織なので一般の方の受入については岸和田市貝塚市クリーンセンターが具体的な対応をすることになるかと思う。

赤坂委員が仰ったとおり、審議会の議論にご活用いただくという観点で我々事務局が申込むというのは大丈夫かと思うので、そういった部分の対応を今回させていただきたい。岸和田市貝塚市クリーンセンターには情報共有という形で赤坂委員のご意見をお届けしたい。

7. 事務連絡

今後のスケジュールについて、事務局から説明を実施。主な内容は以下のとおり。

- 委員の改選について、現委員の任期は令和7年1月25日まで。次回審議会までに委員の改選を行う必要がある。引き続きお引き受けいただければありがたいが、公募委員については、再度公募させていただく必要がある。公募は今年秋頃実施予定。その他の委員の継続意思については、後日、電子メールで照会予定。

- ・次回の岸和田市環境審議会は3月に開催し、令和5年度環境白書、木材町貯木場の環境影響評価などについて報告予定。

8. 閉会

以上